

# 生命科学総合研究支援センター年報第13号

## 目 次

継続性のある全学的な研究支援と地域社会への貢献を目指して .....	
生命科学総合研究支援センター長 田中香お里	1
外科手術手技の向上と preclinical research の推進のために .....	
岐阜大学医学部附属病院	
内視鏡外科手術トレーニングセンター長 岩田 尚	2
生命科学総合研究支援センターの今後に期待する ～皆で技術を磨こう～ ...	
工学部化学・生命工学科教授 横川隆志	3
センターの理念と目的 .....	4
センターの憲章、基本戦略 .....	4
センター組織図 .....	6
センター沿革 .....	8
センター各分野所在地 .....	9
平成27年度活動状況報告 .....	10
平成27年度支援状況 .....	11
平成27年度岐阜大学公開講座 .....	12
センター規程・運営委員会細則・教授会細則 .....	13
分野ごとの報告	
●ゲノム研究分野 .....	17
●嫌気性菌研究分野 .....	49
●動物実験分野 .....	53
●機器分析分野 .....	83
●放射性同位元素実験分野 .....	159
●抗酸化研究部門 .....	173
編集後記 .....	175



## 継続性のある全学的な研究支援と地域社会への貢献を目指して



生命科学総合研究支援センター長 田中香お里

日頃は生命科学総合研究支援センターの業務につきまして、ご協力とご支援をいただき有り難うございます。年報第13号（平成27年度版）をお届けします。

当センターは、平成15年に、それまで主として関連する部局の研究設備として機能していたゲノム研究、嫌気性菌研究、動物実験、機器分析、および放射線同位体元素（RI）の施設が統合され、全学的な研究支援が可能な研究基盤センターとして設置されました。各分野、機器・設備の共同利用の高効率化ときめ細かい管理により、より利用しやすく、安定性の高い研究・教育基盤の提供に努めています。所属教員は自らも研究を行い、研究者の視点にたって、支援業務に従事しています。

ゲノム研究分野では、従来行っている DNA シーケンス受託解析の拡大に加え、遺伝子発現受託解析の開始、嫌気性菌研究分野では、微生物遺伝資源保存業務への支援の拡大、動物実験分野では、ゲノム研究分野と連携した遺伝子改変動物の作成に向けての動き、増加する利用に対応するための RI 医学施設跡地利用を視野に入れた機能強化、機器分析分野では、学内大型機器の効率的運用に向けた支援の拡大など、現状に照らした課題に取り組んでいます。また、地域に貢献する大学として、ゲノム研究分野を中心として、岐阜県家畜保健衛生所・食品科学研究所など地方自治体の研究施設にも支援を広げつつあります。

RI 管理室については、これまで柳戸エリア・医学部エリアの2施設体制で支援を行ってききましたが、近年の研究手法の変化と従前より高まっている安全管理に対する社会的要求に対応すべく、支援機能を柳戸エリアに集約し、管理体制を強化することとなりました。平成28年4月からは、取扱主任者資格を持つ専任教員のもと、複数の取扱主任者を擁する RI 実験分野として稼働しています。これまで、RI 管理室医学施設を利用していただいたユーザーの皆様には、廃止に伴う迷惑とご不便をお詫びいたします。これまでの施設利用にお礼申し上げますとともに、機能集約を図った RI 実験分野のご利用を引き続きお願いいたします。

今後も研究基盤・研究資源の提供を通して、継続性のある全学的な研究支援と地域社会にも貢献できるセンターを目指して努力して参りますので、ご理解とご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

# 外科手術手技の向上と preclinical research の推進のために

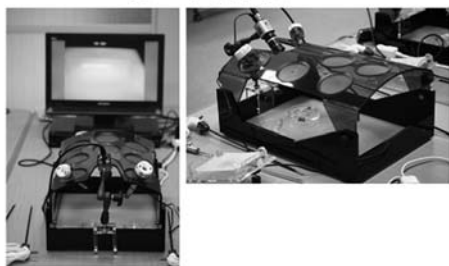


岐阜大学医学部附属病院 岩田 尚  
内視鏡外科手術トレーニングセンター センター長

平成22年に医学部附属病院に「内視鏡外科手術トレーニングセンター」が創設されました。

このセンターは、1990年代から外科系の診療科で急速に施行されている「内視鏡下手術」に外科医がその技術向上をはかる目的に開設されました。この施設は、「ドライラボ部門」と「アニマルラボ部門」からなり、「ドライラボ部門」は、附属病院の北診療棟3Fの研修医室に隣接しております。部門内には、内視鏡下手術用のトレーニングボックスが、7台完備しています。コンピュータシュミレータには、各種内視鏡下バーチャル手術（腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下S状結腸摘出術、腹腔鏡下卵管、卵巣摘出術、腹腔鏡下卵管開窓術、腹腔鏡下腎臓摘出術など）がインストールされています。またロボット支援手術のためのコンピュータシュミレータも別に準備されています。現在、医学生の実習および研修医向けのセミナー、現役医師がロボット手術を施行する前のトレーニングにこの施設を利用しております。

ドライラボ部門  
トレーニングボックス



ドライラボ部門  
コンピュータシュミレータ 手術支援ロボットシュミレータ



一方、「アニマルラボ部門」は、生命科学総合研究支援センター動物実験分野の中動物実験施設内に併設しております。中動物（ブタ）2頭に対する全身麻酔下での内視鏡下手術、研究、実験が可能になっています。

現在までに若手外科医対象のブタに対する手術セミナー（肺切除術、胆嚢摘出術、胃切除術、大腸切除術、腎摘出術、卵巣摘出、卵管結紮術等）、を年1回から2回開催させていただいております。加えて、最近では translational research の preclinical experiments にも対応しております。

この部門の特徴は、当大学応用生物科学部による全面サポートのもとに、現役獣医師による中動物に対する麻酔管理を原則にしている体制にあることです。医学部が司町にあったころの中動物の実験、研究は、医学部各分野の研究室の片隅で施行されてきた記憶があります。現在はまさしく病院の手術室のような環境で、専門の獣医師が麻酔管理を行うことにより動物にも配慮した手術手技のトレーニングおよび研究が施行できます。

当施設を十二分に活用することにより、現代の高度な手術手技に対応できる優秀な外科医師を育成すると共に、岐阜大学発の新しい治療法の開発や他学部研究科の研究推進の一助になることを切に希望しております。

アニマルラボ部門

中動物（豚）における手術トレーニングおよび研究



## 生命科学総合研究支援センターの今後に期待する ～皆で技術を磨こう～



工学部化学・生命工学科 教授 横川 隆志

最初に少し昔話をさせてほしい。私が岐阜大学に赴任することになったのは1995年12月のことである。その直前、1994年から1995年にかけては、翻訳伸長因子の研究で著名なドイツ Bayreuth 大学 Mathias Sprinzl 博士の研究室で過ごしていた。確か1995年の夏のことだったと思う。構造生物学者であるアメリカ Yale 大学の Paul Sigler 博士が Sprinzl 研究室を訪ねてきてセミナーをしてくれた。英語が堪能ではない私はセミナーの研究内容を十分に理解することはできなかったが、Sigler 博士が紹介した一枚のスライドのことをよく覚えている。それにはこう書かれていた。“Progress in science depends on new techniques, new discoveries, and new ideas, probably in that order. Sydney Brenner”。科学は新しい技術があってこそ進歩し、技術が、新しい発見、新しいアイデアの上位に来るといふ。正直に告白するとスライドの文言を一言一句、覚えていたわけではないが、それでも記憶を元に調べられたということは、後にノーベル賞を受賞することになる分子生物学の巨人 Brenner 博士の言葉がよほど強く胸に刻まれていたのだろうし、また、その言葉が金言として世の中に知られている証でもあろう。この寄稿にあたって、Brenner 博士の言葉の出典が知りたくなり、調べて興味深いことを知った。出典を1980年の Nature 誌としている本をいくつか見つけたが、実は Brenner 博士がこの言葉を Nature 誌に載せたわけではなく、あるシンポジウムで Brenner 博士が語った言葉を、友人である Nature 誌の副編集長が少しだけ変えて掲載していたものであった<sup>(1),(2)</sup>。そのアレンジも素晴らしかったのだろう。この言葉の輝きは今も少しも色あせていないと思う。

私が研究対象としているタンパク質合成系は、多くのタンパク質や RNA が協調して働く複雑なシステムであるが、単量体であるアミノ酸の原子一つの違いですら精密に識別されている。また系内で中心的な役割を果たすリボソームが動くさまは、機械式腕時計の小さな歯車が精密に動くさまに通じ、何とも言えない魅力を感じる。その精密さゆえに、放射性同位元素 (RI) により標識されたアミノ酸を用いないとタンパク質の合成活性を調べるのは難しい。私としては、岐阜大学に充実した RI 施設があるのはとてもありがたいし、今年度より RI 施設が生命科学総合研究支援センターの RI 実験分野として分野化されたこともあって、今後ますます RI を用いた実験技術を高めることができるのではないかと期待している。

話は変わるが、先日、アジアにおける日本の大学ランキングが軒並み低下しているとの報道があった。文部科学省が危機感を抱いても無い袖は振れないわけで、今後、研究費の「選択と集中」の傾向がより強まるだろう。結果として研究レベルの大学間格差はますます広がるに違いない。私見ではあるが、新しいアイデアについてはともかく、研究者層が厚くなければ、Brenner 博士の言う新しい技術の確立や深化は達成できないと思う。そういう意味では、今のうちに岐阜大学に所属する研究者が集い、新しい技術の確立や深化を目指して切磋琢磨する必要があるのではないか。幸い RI 管理室が RI 実験分野となって強化されたり、高額な分析機器の共通化を促す動きがあったり、と、皆で技術を磨ける環境が整えられつつあると感じている。生命科学総合研究支援センターには、ぜひ、その中核を担っていただきたい。

(1) Robertson, M. Biology in the 1980s, plus or minus a decade., Nature, 285, 358-359, (1980).

(2) Brenner, S. Detective Rummage investigates., The Scientist, August 19, (2002).



# センターの理念と目的

## 1. 概要

岐阜大学における生命科学研究を積極的に推進させるために、機器の共同利用の高効率化と高精度化により統合的な問題解決のための研究基盤を整備し、かつ人的・知的交流も活発化して学部や地域を越えたハブとしての機能を発揮できるセンターを目指す。

## 2. 研究のサポート

- (1) 先端的研究を支える大型機器の共同利用（導入・維持・更新）
- (2) 特別管理された実験室の共同利用

## 3. 教育のサポート

- (1) 実験技術の普及と教育研究のレベルアップ
- (2) 安全管理と教育訓練

## 4. 社会への貢献

- (1) 岐阜県の科学教育の支援と市民の啓蒙活動
- (2) 地域との連携とベンチャービジネスの育成

## 5. 運営について

- (1) センター活動の学内外への広報と利用・受託サービスの拡充
- (2) 共同プロジェクトによる大型研究費の導入と利用負担金・受託研究費の有効利用

# センターの憲章、基本戦略

平成19年 4月 1日

## 【憲章】

岐阜大学および地域における生命科学研究の教育・研究基盤拠点として機能する

生命科学総合研究支援センターは岐阜大学の理念に基づき、学内外の共同利用施設として生命科学分野を含めた総合的な教育・研究基盤となる設備、機器を整備し、かつ人的・知的交流も活発化して学部や学内外の枠を越えた「地域の知の拠点」としての機能を目指す。

1. 全学を対象に、生命科学を含めた総合的な専門知識、技術を習得し、安全管理、教育訓練を通じて高度な倫理観を身につけた人材を育成する。【生命科学・安全教育】
2. 大学における高度な教育・研究水準を維持するため、生命科学の研究基盤を積極的に整備し、全学的な利用を推進する。【研究基盤整備】
3. 生命科学を軸に学部を超えた研究の融合、共同研究の展開を図り、競争的研究資金の獲得を目指す。【全学的共同研究の推進】
4. 大学院連合に積極的に参加し、地域の特性を活かした独創的研究分野を開拓し、質の高い研究を推進する。【大学院連合による先端教育・研究の推進】
5. 地域における生命科学分野の教育、研究基盤施設として地域科学産業の振興に貢献し、研究資源・大型設備の学外への解放、共同・受託研究の展開等、産官学の融合を積極的に進める。【地域の知の拠点形成】

6. 地域教育と文化への貢献を目指し、公開講座や学校教育への積極的支援を進めて、科学知識の市民への啓蒙を図る。 【地域社会教育・文化への貢献】
7. 研究基盤整備の要求に加え、利用者負担や学外利用、機器の再生・利用拡大を進め、効率的かつ戦略的な経営と管理運営を行う。 【自助努力・リユースも踏まえた戦略的運営】

## 【基本戦略】

### (1) 教育基本戦略：

- ・生命科学分野の講義・実習を通して全学的な教育支援を行う。
- ・教育目標達成に必要な基盤経費を確保し、配分する。
- ・教育環境を整備し、拡充する。
- ・各大学院のカリキュラムに添って、専門教育を積極的に協力・支援し、社会の要請に応える資質能力を持った学生を育てる。
- ・岐阜薬科大学との連合大学院の充実に積極的に参加するとともに、生命科学を含めた総合的な教育環境を提供する。

### (2) 研究基本戦略：

- ・目標を高くもち、世界レベルの研究を行う。
- ・研究の活性化を図り、世界トップレベルの研究を育てる。
- ・独自色のある研究を重視し、継続する。
- ・若手研究者を重視した組織構成に転換を図る。
- ・戦略的に特色ある研究を発展させる。
- ・岐阜薬科大学との共同研究、研究基盤の共同利用を進める。
- ・高い評価を受けている研究、将来性のある研究に資源を重点的に配分する。
- ・競争的環境にチャレンジする。
- ・科学研究費に全教員が申請し、より多く、より大型の研究費を獲得するよう務める。
- ・文部科学省以外のナショナルプロジェクトにも積極的に応募し、資金を獲得する。
- ・外部資金のための情報を収集し、推進に必要な最新の設備を整備して提供する。
- ・全学的研究支援センターとして整備する。
- ・戦略的・長期的・全学的見地から研究設備整備計画（マスタープラン）を立てる。

### (3) 社会貢献基本戦略：

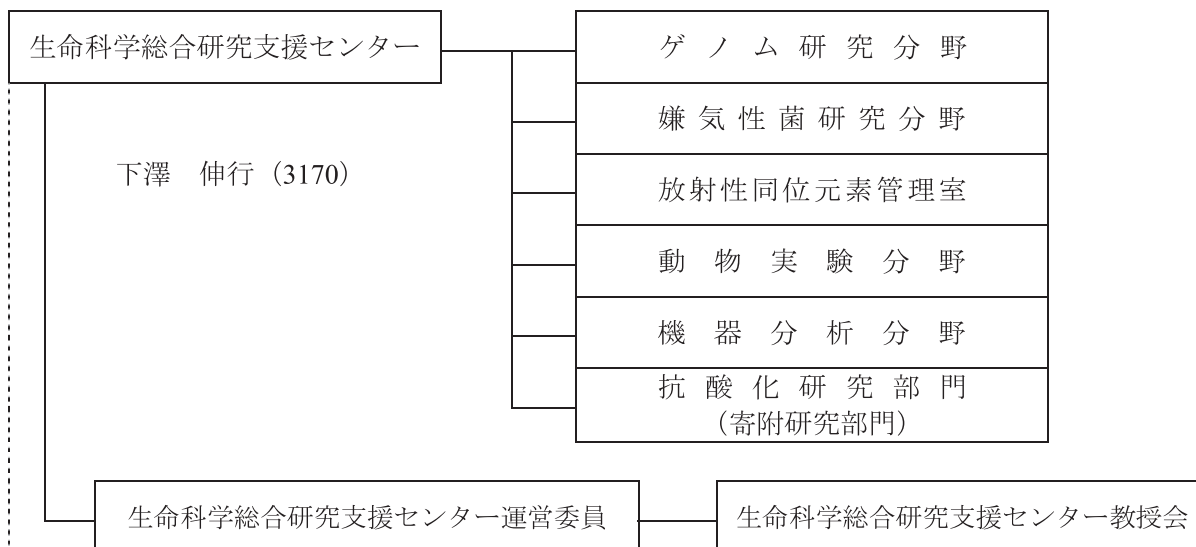
- ・シーズの開発、ニーズに対応して研究資源を学外に解放し、産業に貢献する。
- ・生命科学分野の研究基盤施設として地域の産業の振興と発展に貢献する。
- ・教職員は社会貢献に積極的に参画し、広い視野から地域に貢献する。
- ・地域住民に生命科学知識についての啓蒙活動を行う。
- ・大学の講義や施設・設備を地域住民に開放し、地域文化に貢献する。
- ・地域住民の文化活動と生涯教育に参加する。
- ・各種の学校への生命科学分野の教育支援を行う。

### (4) 運営基本戦略：

- ・中期目標、中期計画を確実に実行する。
- ・評価を運営に生かす。
- ・透明、効率的、迅速な運営をする。
- ・全学的な研究水準の維持、向上に必要な基盤整備を要求するとともに、利用者負担等による自助努力を進め、効率的な経営を行う。
- ・既存の設備・機器の再生、ネットワーク等による利用拡大を進め、リユースを図る。
- ・外部資金を獲得するため大学としての戦略を図り、研究基盤施設を整備し支援する。
- ・環境に配慮した運営をする。

# センター組織図 ( ) 内は内線番号

(平成28年 3月31日まで)



区	分	平成 27 年度運営委員 [任期]	平成 27 年度教授会員
生命科学総合研究支援センター長 (委員長)		下澤 伸行 (3170)	下澤 伸行 (3170)
教育学部		古屋 康則 (2255) [H26.4.1~H28.3.31]	
地域科学部		肥後 睦輝 (3074) [H26.4.1~H28.3.31]	
医学系研究科・医学部		湊口 信也 (6520) [H26.4.1~H28.3.31]	
医学部附属病院		岩田 尚 (6323) [H26.4.1~H28.3.31]	
工学部		池田 将 (2639) [H27.4.1~H28.3.31]	
応用生物科学部		小山 博之 (2911) [H26.4.1~H28.3.31]	
生命科学総合研究支援センター	ゲノム研究分野 RI 管理室総括管理者	下澤 伸行 (3170)	下澤 伸行 (3170) 須賀 晴久 (3173) 高島 茂雄 (3174)
	嫌気性菌研究分野	田中 香お里 (6552)	田中 香お里 (6552) 後藤 隆次 (6553) 林 将大 (6554)
	動物実験分野	二上 英樹 (6609)	二上 英樹 (6609) 平田 暁大 (6610)
	機器分析分野	近江 靖則 (2037)	近江 靖則 (2037) 鎌足 雄司 (6151) 犬塚 俊康 (6152)

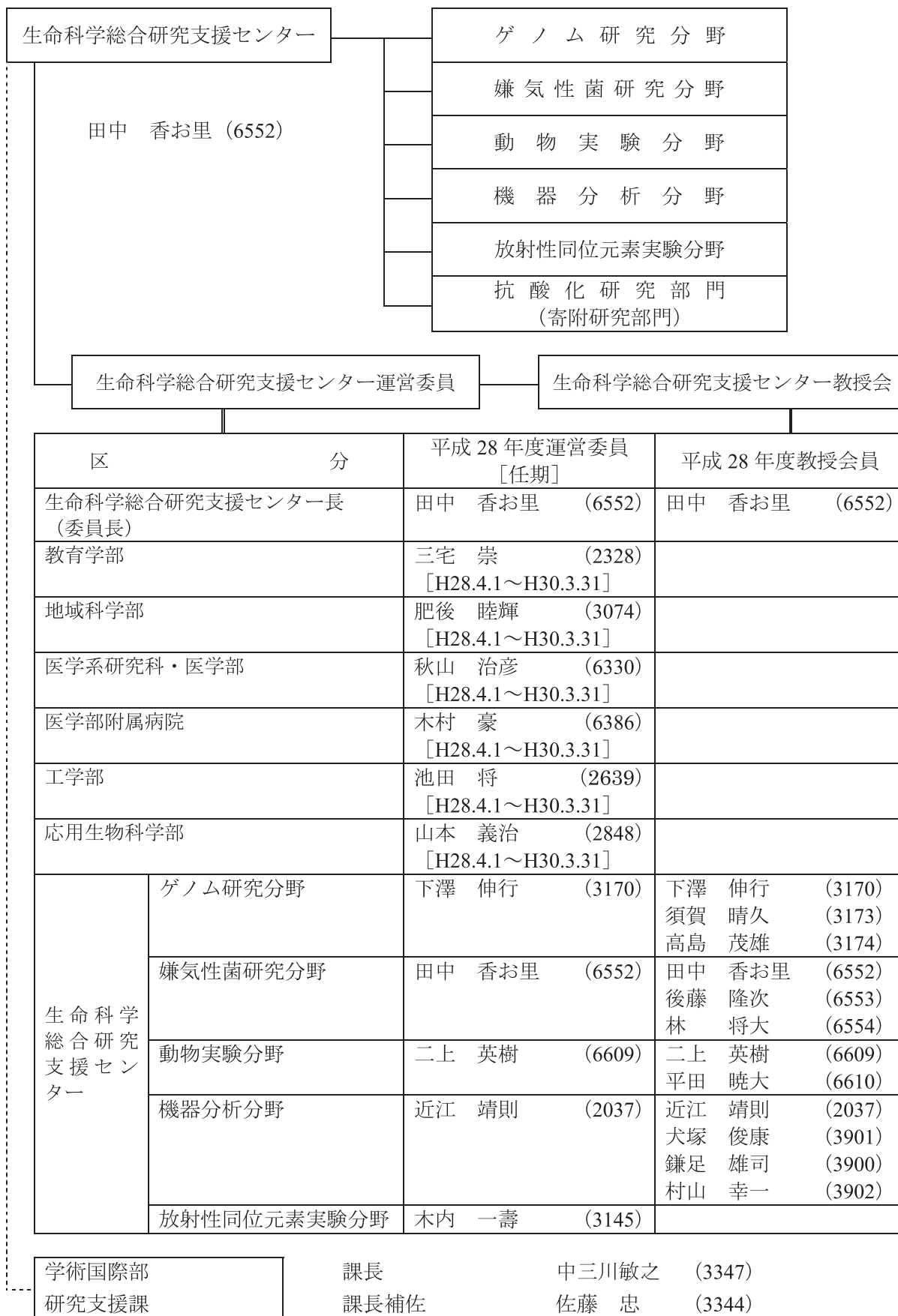
学術国際部  
研究支援課

課長	蓑島 博徳 (3347)
課長補佐	佐藤 忠 (3344)
研究施設係長	小林 恵子 (3352)
研究施設係	伊藤 美奈 (2014)
	杉山 純子 (9693)



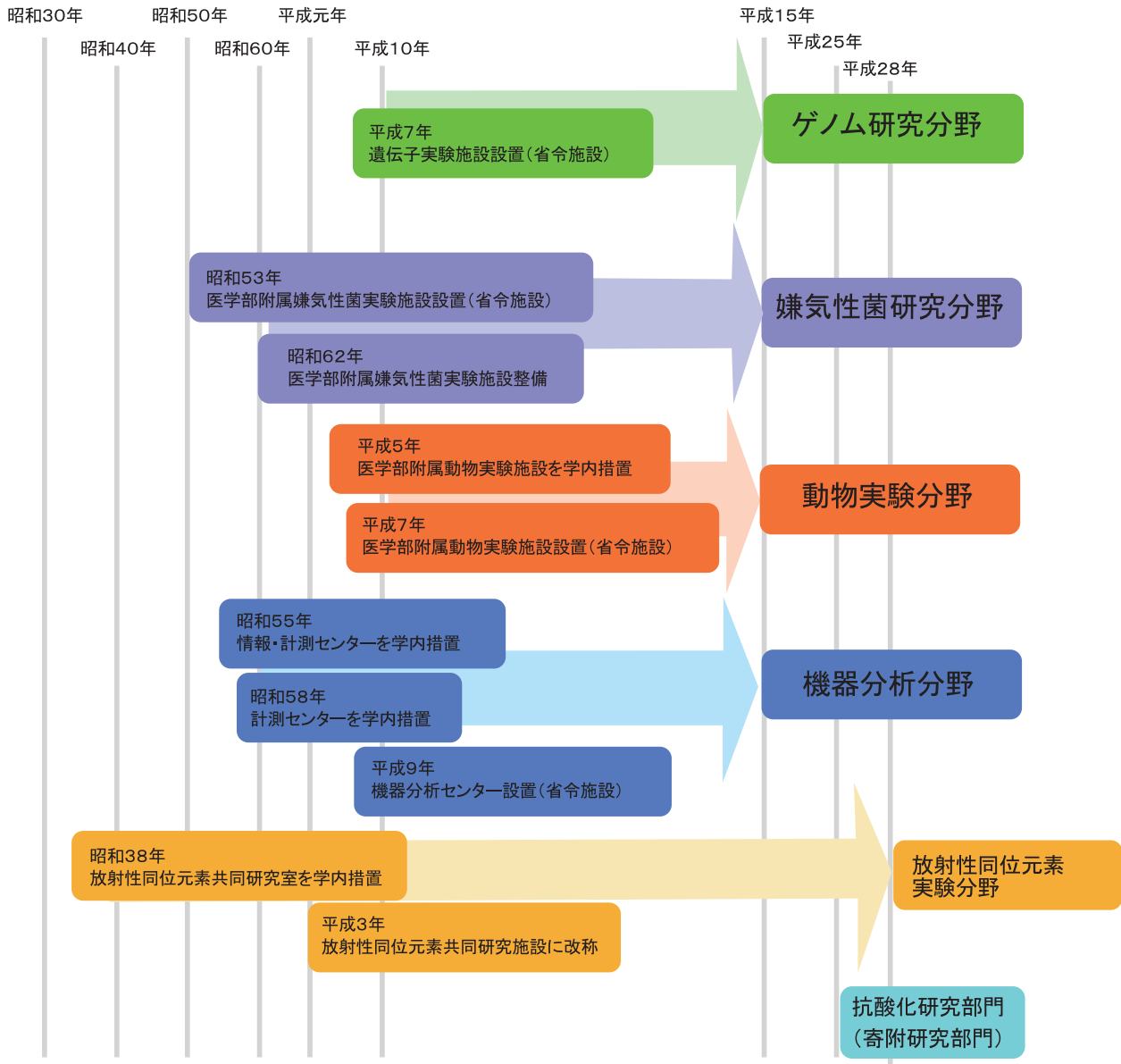
# センター組織図 ( ) 内は内線番号

(平成28年4月1日から)



# センター沿革

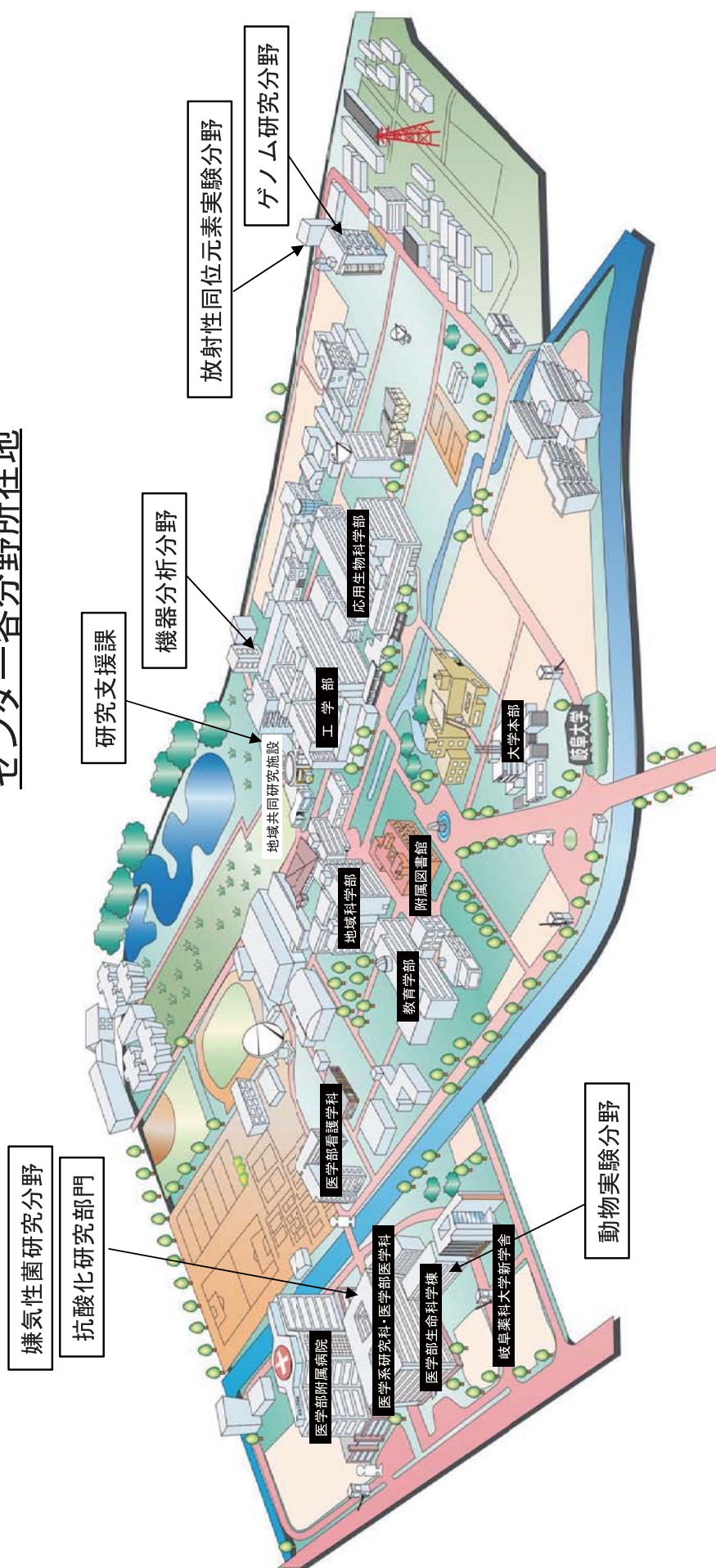
## 生命科学総合研究支援センター



- 平成15年
- 生命科学総合実験センター設置
  - ゲノム研究分野、嫌気性菌実験分野、動物実験分野、機器分析分野の4分野を設置
  - 放射性同位元素共同研究施設と遺伝子実験施設を統合しゲノム研究分野へ
- 平成17年
- 初代センター長に渡邊邦友教授が就任
- 平成18年
- 2代センター長に下澤伸行教授が就任
- 平成22年
- 3代センター長に渡邊邦友教授が就任
- 平成23年
- 機器分析分野医学施設稼働
- 平成24年
- 4代センター長に下澤伸行教授が就任

- 平成25年
- 放射性同位元素管理室に改称し、担当をゲノム研究分野から嫌気性菌研究分野へ変更
  - 寄附研究部門「酸化研究部門」設置 (3年間)
  - 平成26年
  - 総合研究棟Ⅱ完成
- 平成27年
- 機器分析分野医学施設を廃止し、一元化
- 平成28年
- 5代センター長に田中香お里教授が就任
  - RI管理室医学施設を廃止し、一元化
  - 放射性同位元素実験分野を設置

# センター各分野所在地



# 平成27年度活動状況報告

生命科学総合研究支援センター教授会

第135回生命科学総合研究支援センター教授会

平成27年4月22日（水）

- 議題(1) 貢献度実績・自己点検評価に係るガイドライン及び部局項目について  
(2) 組織見直しに係る検討状況について  
(3) 機種選定委員会委員について  
(4) 受託研究について

第136回生命科学総合研究支援センター教授会

平成27年5月27日（水）

第137回生命科学総合研究支援センター教授会

平成27年6月24日（水）

- 議題(1) 研究生の受入れについて  
(2) 共同研究について  
(3) 寄附金受入・受入時期の変更及び寄附物品の受入れについて

第138回生命科学総合研究支援センター教授会

平成27年7月22日（水）

- 議題(1) 助教の増員について  
(2) 大学推進による国費外国人留学生の選考に関する申合せについて  
(3) 女性教員比率の数値目標について

第139回生命科学総合研究支援センター教授会

（メール開催）

平成27年8月3日（月）～

平成27年8月6日（木）17:00

- 議題(1) 第3期中期目標・中期計画の実施計画（1次案）に対する意見について

第140回生命科学総合研究支援センター教授会

平成27年9月28日（月）

- 議題(1) 第3期中期目標・中期計画の実施計画（2次案）に対する意見照会について  
(2) 放射性同位元素（RI）管理室医学施設の廃止について  
(3) 規程等の改正等について  
(4) 寄附金について

第141回生命科学総合研究支援センター教授会

平成27年10月28日（水）

- 議題(1) センター長候補者選挙等について  
(2) 第3期中期目標・中期計画の実施計画

（3次案）に対する意見照会について

(3) 共同研究及び寄附金について

第142回生命科学総合研究支援センター教授会

平成27年11月30日（月）

- 議題(1) 寄附金の受入れについて  
(2) 助教の増員について  
(3) センター長候補者選挙等について

第143回生命科学総合研究支援センター教授会

平成28年12月22日（火）

- 議題(1) 兼務の依頼、特任教員事前協議書及び特任教員雇用申請書について  
(2) 公開講座の実施報告書及びアンケート結果について  
(3) 寄附金の受入について

第144回生命科学総合研究支援センター教授会

平成28年1月27日（火）

- 議題(1) 平成28年度計画について  
(2) 平成28年度公開講座実施計画について

第145回生命科学総合研究支援センター教授会

平成28年2月24日（水）

- 議題(1) 微生物遺伝資源保存センターについて  
(2) RI医学施設の廃止にかかる規程の改正について  
(3) 寄附金の受入れについて  
(4) 平成28年度担当ローテーション表について  
(5) 平成28年度委員会委員について

第146回生命科学総合研究支援センター教授会

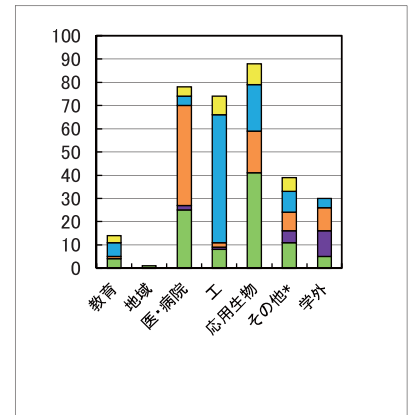
平成28年3月18日（水）

# 平成27年度支援状況

平成27年度登録グループ数

	教育	地域	医・病院	工	応用生物	その他*	学外
ゲノム研究分野	4	1	25	8	41	11	5
嫌気性菌研究分野	0	0	2	1	0	5	11
動物実験分野	1	0	43	2	18	8	10
機器分析分野	6	0	4	55	20	9	4
放射性同位元素実験分野	3	0	4	8	9	6	0

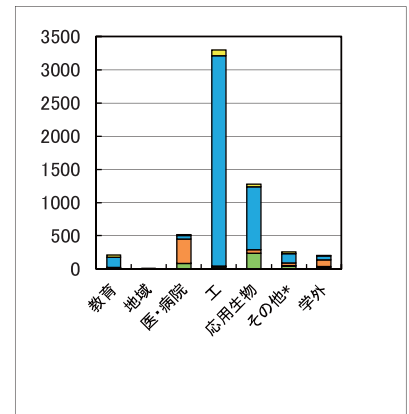
\* その他: 生命セ、流域、情報メディア、連合創薬、連合農業など  
 放射性同位元素実験分野は、柳戸施設と医学施設との合計であり重複有り  
 機器分析分野は、柳戸施設と医学施設との合計であり重複有り



平成27年度登録者数

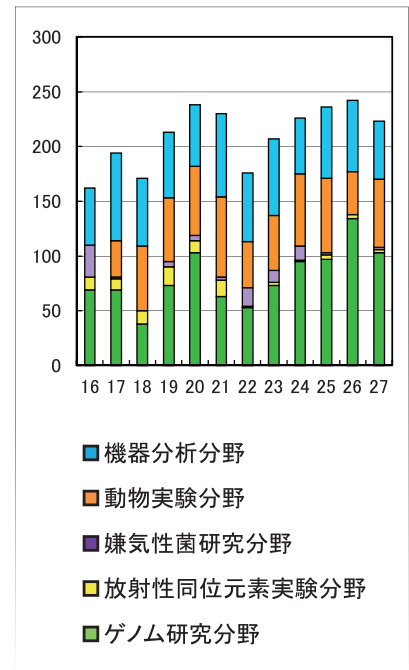
	教育	地域	医・病院	工	応用生物	その他*	学外
ゲノム研究分野	18	6	82	29	239	44	17
嫌気性菌研究分野	0	0	3	6	0	5	22
動物実験分野	6	0	367	6	49	39	97
機器分析分野	154	0	51	3172	948	140	57
放射性同位元素実験分野	34	0	15	86	43	27	4

\* その他: 生命セ、流域、情報メディア、連合創薬、連合農業など  
 放射線同位元素管理室は、柳戸施設と医学施設との合計であり重複有り  
 嫌気性菌研究分野は支援件数の総計であり重複有り  
 機器分析分野は、装置ごとの登録者数の総計および柳戸施設と医学施設との合計であり重複有り



センターを利用して発表された論文(研究支援論文)数推移

	年度											
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
ゲノム研究分野	69	69	38	73	103	63	53	73	95	97	134	103
嫌気性菌研究分野	29	2	0	5	5	3	17	11	13	2	0	2
動物実験分野	0	33	59	58	63	73	42	50	66	68	39	62
機器分析分野	52	80	62	60	56	76	63	70	51	65	65	53
放射性同位元素実験分野	12	10	12	17	11	15	1	3	1	4	4	3





# 岐阜大学 公開講座

## 生命科学の扉 ～研究がもたらすもの～

岐阜大学の研究者が分かりやすくお話しする生命科学のトピック。  
多彩な世界が広がる生命科学の世界をちょっとのぞいてみませんか。

**日時** 平成27年11月29日(日) 13:00～17:00 **定員** 36名

**会場** 岐阜大学サテライトキャンパス(JR岐阜駅前)

**参加費** 無料(11月13日(金)までにお申込み下さい。) **対象者** 学生、一般市民

### プログラム

#### 講演 1

食の生産・安全と  
微生物とのかかわり

ゲノム研究分野  
須賀 晴久

#### 講演 2

細菌についての  
最近の話題

嫌気性菌研究分野  
田中 香お里

#### 講演 3

動物のがんが  
教えてくれること

動物実験分野  
平田 暁大

#### 講演 4

生き物の中の  
無機物質

機器分析分野  
近江 靖則

閉講式・  
修了証の授与

生命科学総合研究支援  
センター長  
下澤 伸行



主催：岐阜大学生命科学総合研究支援センター

**申込方法** 郵便・FAX・Eメールにて、住所・氏名・年齢・連絡先をお伝えください。申し込みされた方には、後日案内通知を発送します。  
**申込・問い合わせ先** 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学学術国際部研究支援課 TEL:058-293-2014 FAX:058-293-3209 E-mail:gjai04004@jim.gifu-u.ac.jp

# 岐阜大学生命科学総合研究支援センター規程

平成19年10月1日  
規程第64号

(趣旨)

第1条 この規程は、岐阜大学学則第11条第2項の規定に基づき、生命科学総合研究支援センター(以下「センター」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、国立大学法人岐阜大学(以下「本学」という。)の共同教育研究基盤施設として、生命科学に関連する先進的分野の教育研究を行うとともに放射性同位元素、実験動物、大型分析機器等の適切な管理を行うことにより、本学における生命科学分野の教育研究の総合的推進を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 センターに次の表の左欄に掲げる分野を置き、同表の右欄に掲げる業務を行う。

分 野	所 掌 業 務
ゲノム研究分野	一 ゲノム解析を中心とした生命科学分野における研究 二 生体分子解析等の研究基盤整備及び研究支援 三 その他生命科学研究に関すること。
嫌気性菌研究分野	一 嫌気性菌感染症及び嫌気性菌症の診断、病因、治療、予防等に関する基礎的・臨床細菌学的研究 二 偏性嫌気性菌を中心とした微生物遺伝資源の系統保存 三 嫌気性菌感染症の診断支援、嫌気性菌の培養・分離・同定、嫌気性菌を用いた研究に関する支援 四 その他嫌気性菌実験に関すること。
動物実験分野	一 動物実験モデル及び実験用動物の開発研究、遺伝資源管理 二 実験動物の飼育管理及び実験動物を用いた教育研究の支援 三 その他動物実験に関すること。
機器分析分野	一 ナノスケールにおける新規分析技術の開発研究 二 生体試料及び機能性化合物の分子構造解析に関する研究支援 三 分析機器の維持管理及び分析技術の指導 四 その他機器分析に関すること。
放射性同位元素 実験分野	一 放射性同位元素の管理及び放射性同位元素を用いた教育研究の支援 二 自然放射線、環境放射線に関する教育研究の支援 三 その他放射性同位元素実験に関すること。

(職員)

第4条 センターに次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 専任の教育職員
- 三 その他の職員

(センター長の職務)

第5条 センター長は、センターの業務を掌理する。

(センター長候補者の推薦等)

第6条 国立大学法人法施行規則第7条の2に規定する、学部等教育研究上の重要な組織の長の任命に関し、学長が定める事項(平成26年11月20日学長裁定)に定めるセンター長の任免手続きに基づ

く候補者の推薦等については、別に定める。

(専任の教育職員の選考)

第6条の2 第4条第2項に規定する専任の教育職員の選考については、別に定める。

(分野長)

第7条 各分野に分野長を置き、当該分野の専任の教授、准教授又は講師をもって充てる。

2 分野長は、センター長の命を受け、当該分野における業務を総括し、及び整理する。

(放射線取扱施設管理責任者)

第8条 放射線取扱施設に国立大学法人岐阜大学放射線障害防止管理規程第6条に規定する管理責任者を置き、センターの専任の教育職員をもって充てる。ただし、適任者が得られないときには、センター以外の教育職員をもって充てることができる。

(教授会)

第9条 センターに、生命科学総合研究支援センター教授会（以下「センター教授会」という。）を置く。

2 センター教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第10条 センターに、センターの共同利用に関する事項、センター長から諮問された事項等を審議するため、生命科学総合研究支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(機器分析分野協力員)

第11条 機器分析分野に、当該分野の業務に協力し、利用及び分析技術の研究、開発等を行うため、機器分析分野協力員を置くことができる。

2 機器分析分野協力員は、本学の専任の教育職員をもって充てる。

3 前項に規定するもののほか、機器分析分野協力員に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第12条 センターに関する庶務は、学術国際部研究支援課において処理する。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター教授会の意見を聴いて、センター長が定める。

附 則

1 この規程は、平成19年10月1日から施行する。

2 岐阜大学生命科学総合研究支援センター規則（平成16年岐阜大学規則第158号）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成21年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

# 岐阜大学生命科学総合研究支援センター運営委員会細則

平成19年10月1日  
細則第67号

(趣旨)

第1条 この細則は、岐阜大学生命科学総合研究支援センター規程第10条第2項の規定に基づき、生命科学総合研究支援センター（以下「センター」という。）に置く生命科学総合研究支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、センターに関する次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 共同利用に関すること。
- 二 実験施設等の利用に係る安全管理に関すること。
- 三 センター長から諮問された事項
- 四 その他委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 センターの各分野の長及び放射線取扱施設管理責任者
- 三 各学部（医学部を除く。）から選出された教育職員 各1人
- 四 医学系研究科・医学部から選出された教育職員 1人
- 五 医学部附属病院から選出された教育職員 1人
- 六 その他委員会が必要と認める者

2 前項第6号に規定する委員には、外部有識者を含めることができる。

3 第1項第3号から第6号までに規定する委員は、学長が委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第3号から第6号までに規定する委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときの補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、センター長をもって充てる。

3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 議事は、出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(専門部会)

第8条 委員会は、必要に応じ、特定の事項を審議するため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

第9条 委員会は、その定めるところにより、専門部会の議決をもって委員会の議決とすることができる。

(雑則)

第10条 この細則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会の意見を聴いて、センター長が定める。

附 則

1 この細則は、平成19年10月1日から施行する。

2 岐阜大学生命科学総合研究支援センター運営委員会規則（平成16年岐阜大学規則第160号）は、廃止する。

附 則

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。



# 岐阜大学生命科学総合研究支援センター教授会細則

平成19年10月1日  
細則第66号

(趣旨)

第1条 この細則は、岐阜大学生命科学総合研究支援センター規程第9条第2項の規定に基づき、生命科学総合研究支援センター（以下「センター」という。）に置く生命科学総合研究支援センター教授会（以下「センター教授会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 センター教授会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 中期計画及び年度計画に関する事項（国立大学法人岐阜大学の経営に関するものを除く。）
  - 二 センター長候補者の推薦に関する事項
  - 三 教育職員の教育研究業績の審査に関する事項
  - 四 教育研究戦略、教育研究方法及び教育研究組織に関する事項
  - 五 予算配分及び決算に関する事項
  - 六 その他教育、研究及び業務に関する重要事項
- 2 センター教授会は、前項に規定するもののほか、学長及びセンター長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 3 センター教授会は、学長に対し、センター長の解任及び大学運営に関して意見を述べるができる。

(組織)

第3条 センター教授会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 センターに所属する専任の教育職員

(議長)

第4条 センター長は、センター教授会を主宰し、その議長となる。

2 センター長に事故があるときは、センター長があらかじめ指名する教授がその職務を代理する。

(会議)

第5条 センター教授会は、その構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 議事は、出席者の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、教育職員の教育研究業績の審査に関する事項についての議決は、出席者の3分の2以上の同意を要する。

(構成員以外の者の出席)

第6条 放射線取扱施設管理責任者がセンター以外の教育職員の場合は、その者は、センター教授会に出席し、意見を述べるができる。

(雑則)

第7条 この細則に定めるもののほか、センター教授会の運営その他に関する事項は、センター教授会の意見を聴いて、センター長が定める。

附 則

この細則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。